

市民意見整理台帳

「津波ハザードマップ及び土砂災害等ハザードマップ」の改訂案に係る市民意見及び反映状況

- 意見募集期間 平成25年1月21日（月）から2月19日（火）まで

- 提出された意見の概要

- 1 意見提出者数 3人
- 2 意見項目数 22件
- 3 内容別の内訳

(1) 津波ハザードマップ

件数
22

(2) 土砂災害等ハザードマップ

件数
0

(3) 津波・土砂災害等ハザードマップ共通事項

件数
0

- 意見の反映状況

反映区分	津波ハザードマップ	土砂災害等ハザードマップ	津波ハザードマップ 土砂災害等ハザードマップ 共通事項
	件数	件数	件数
A マップに反映させたもの	11	0	0
B 意見の趣旨が既にマップに盛り込まれているもの	2	0	0
C 今後の取組みにおいて参考にするもの	4	0	0
D マップに反映できないもの	2	0	0
E その他（感想・意見など）	3	0	0

【津波ハザードマップ】

No.	該当箇所	意見等	市の考え方（対応）	反映区分
1	地図面	津波警戒地域用図記号が記載されていない。日本中の海岸現場の標識には記載されており、紙のハザードマップに未記載は矛盾する。 浸水方向の矢印とセットにして、大きめの表現で海辺或いは海上に描くのが良い。	ご意見を踏まえ、津波の浸水方向を示す矢印の位置に表示したいと思います。	A
2		全体的に避難ビルが少ない。 海岸から市街地にかけては、聖マリア小学校及び幼稚園と逗子開成学園のみで、それぞれ中層・低層である。これから建築されるビルに対し高層化対応を促す優遇策はとれないか。都心では住居部分をオフィスビルの上層部に持つことで容積率など優遇される例あり。	津波避難ビルの協力依頼については、鋭意取り組んでいるところです。今後も継続して依頼していくとともに、自治会、町内会や自主防災組織などに対し、改めて協力要請していきます。なお、これから建築されるビルに対し高層化対応を促す優遇策については、現時点で考えておりません。	C
3		避難ビル標識の配置と高さについて。中・低層ビルを指定しているため、遠望がきかず、離れた場所から不明確であるため、ビルが一番高い場所に標識を設置すべきである。海方向から眺めてははっきりわかる角度がよい。東北の災害時にはそうした成功例あり。	避難ビル標識の設置場所については、施設管理者に要請してきております。	E
4		人の動線を示す矢印はISO及びJISでは安全表示用矢印が制定されているので、肝心な箇所にはこの矢印を用いるのが良い。 到着点（高所或いは避難ビル）への繋がりが描かれていないため、海沿いに横に走る細い矢印の理解が難しく、「海岸から遠くに早く逃げろ」「より高いところに逃げろ」の二大原則に繋がらない。 山裾或いは丘裾からは到達点への動線が描かれており、地元の方々と相談し、そこに繋げることは出来ないか。無理であれば、少なくとも二大原則を矢印で表示願う。（海岸から平地にいる人々が初期動作に後れをとるため） 市内の標識の所在配置図を作成を願う。 他市ではハザードマップを携帯ナビに繋げる開発を行っている情報もあり、逗子市での導入を望む。	安全表示用矢印については、すでに採用しているものと認識しています。 逗子海岸沿いの横に走る避難経路については、ご指摘のとおり、いち早くより高い場所に避難するための動線とは言い難いため、削除するとともに、海から陸地へ避難する動線を強調したいと思います。 標識配置図及び携帯ナビの導入については、財政上の課題もあり、今後の検討課題とさせていただきます。	A

5		標高ラインを太く表示	他のラインと干渉する部分を考慮し、原案どおりの太さとしました。	D
6		標高と津波浸水深の区別が紛らわしく、凡例を見なければわからない。	津波浸水域内においても、標高の目安を示すことは必要であると考えています。凡例をわかりやすくするなどの措置を講じたいと思います。	A
7		新宿4丁目石原慎太郎邸への坂道の途中から右に曲がり尾崎行雄邸下を通る道は少し行くと左に曲がり簡単に登れる。石原慎太郎邸の上から上る道は急であり、こちらの道を避難路に加えるべきである。	ご意見を踏まえ、避難経路を追記したいと思います。	A
8		津波一時避難所（建物）については、標高だけでなく、逃げる際の目安になるため、各建物の高さも表示願う。	ご意見を踏まえ、浸水エリア内に所在する津波避難ビルのビル高を表示したいと思います。	A
9		標高ラインの凡例を別の場所に移動願う。（標高ラインの凡例により、材木座が隠れるため）	鎌倉市域をどの程度まで表示するか検討したいと思います。	C
10		浸水深の色分けだけでなく、昨年の発行の「明応型」にあったような数値の記載も併用願う。（モノクロコピーの際の区別が困難なため）	マップの見やすさを考慮し、浸水深の数値は表示しないこととしました。	D
11		発行日/レビジョン NO.が記載されておらず、最新版の特定が出来ない。	ご意見を踏まえ、最新版が特定できるよう、発行日等を表記したいと思います。	A
12		避難経路の脇の数値についての説明がされていない。	ご意見を踏まえ、避難経路上の距離について、凡例に追記したいと思います。	A
13		地図が小さすぎてわかりづらい。	地図面の縮尺を可能な限り拡大し、見やすくしたいと思います。	A
14		今回のハザードマップの原図は「明応型地震津波浸水予測図」をもとにしていると思われるが、最大津波 8.9m に対して遡上高が考慮されておらず、標高通りの浸水域となっている。遡上高についての見解を頂きたい。また、現状の表記を採用する場合、標高が津波高以上であっても遡上高により浸水の恐れがあることを明記すべきである。	当該マップは、神奈川県が示した津波浸水予測図を基にしております。原図は、県が最大クラスの津波を想定してシミュレーションしたものであり、田越川の遡上や狭隘箇所における津波の集中などが考慮されております。ご意見を踏まえ、考慮されている旨、記述したいと思います。	B
15	情報面	我が家の避難場所の欄を設けたことは良い。避難ルートは点線が方眼にあるとより良い。	地図面の縮尺が小さいというご意見を多数いただいておりますので、情報面の内容を再検討したいと思います。	C

16		浸水深（標高+その高さ）の説明を加筆願う。標高プラスであることを絵で示し、説明を入れるべき。	浸水深は、あくまで浸水した水の深さであるため、標高値はプラスされません。 その旨を記述したいと思います。	C
17		情報の元データ、発行元が不明。情報の発行先（情報責任）を明確にし、記載すべきである。（想定地震等）	ご意見を踏まえ、情報源が特定できるよう、発行元等を追記したいと思います。	A
18		津波に関する一般論より、逗子市固有の津波関連情報を増やした方が良い。	ご意見を踏まえ、市固有の情報を追記したいと思いません。	A
19		「明応型地震津波」及び「慶長型地震津波」についての説明を増やした方が良い。（関東大震災津波、元禄型津波より被害が甚大であると想定されるため）	ご意見を踏まえ、追記したいと思います。	A
20	その他	基本情報は県からで、近隣地域と共有する内容が好ましい。	マップの作成に当たっては、近隣市町との調整を図りながら進めているところです。	B
21		「津波避難誘導システム」としての機能が発揮できることが重要であり、紙の印刷物からの脱皮も望める。	ご意見を踏まえ、今後の検討課題とさせていただきます。	E
22		逗子市ハザードマップは紙の媒体である。教育や家庭での自主的防災計画には役立つが、人それぞれの理解度の差があり、頭の中では描ききれない。それを日常的かつ非常時に補えるのが標識である。標識と一体となった防災計画の策定を強く要望する。これには時間的ファクターや電源喪失時といった重なる他の災害ファクターへの配慮も必要となる。 現在 ISO/JIS 規格策定のための作業が進められており、逗子市の例が国際規格に整合する或いは範例になるよう願う。	ご意見として承ります。	E

【土砂災害等ハザードマップ】

- ご意見は特にありませんでした。